

小豆島の小学6年生 追大訪問!!



2023年8月8日小豆島の小学6年生の子供たちが茨木市へ訪れた。その際に茨木市にある大学として追手門学院大学へ来るプログラムが含まれており、茨木市と小豆島町の姉妹都市の普及活動を行っている「小豆島プロジェクト」にプログラムのおファーがあったことがきっかけであった。

訪問企画 きっかけ

小豆島プロジェクト活動報告書

小豆島小学6年生

追大訪問企画

編

文責：
濱口雛吏

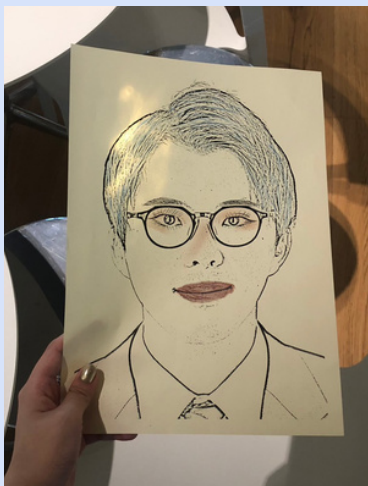


企画を作る時に

意識したこと！

小豆島プロジェクトとして、学内プログラムを企画し運営することは初めての試みであったため、なかなか上手くいかず苦戦したという。プログラムは小豆島の小学生が「大学生ってこんなに楽しいんだ」「大学生になりたい」、「大学生って魅力的！キラキラしている！」などの将来の自分像をイメージしてもらえるように工夫を凝らした。具体的には、学内を巡り、大学の規模感を体験してもらいながら、「小豆島編」・「茨木編」・「追手門編」・「小豆島プロジェクト編」の4つの謎を解き明かすことで手に入れることができる化粧品を使い、顔が印刷された紙に化粧体験を行っていくのだ。この化粧体験は、私が伝えたかった社会の多様性や自分と他人の違いを受け入れていくこと大切さ、感じてもらう機会にした。

る！」などの将来の自分像をイメージしてもらえようように工夫を凝らした。具体的には、学内を巡り、大学の規模感を体験してもらいながら、「小豆島編」・「茨木編」・「追手門編」・「小豆島プロジェクト編」の4つの謎を解き明かすことで手に入れることができる化粧品を使い、顔が印刷された紙に化粧体験を行っていくのだ。この化粧体験は、私が伝えたかった社会の多様性や自分と他人の違いを受け入れていくこと大切さ、感じてもらう機会にした。



フェイスプラン体験の顔

追手門学院大学 訪問企画までの道のり

追手門学院大学

放送部とのコラボ映像

本格的に追大訪問企画が始動したのは、6月頃であった。オープニングやクロージングでは、小学生たちに企画の世界観を楽しんでもらうために、大学の1階にある大型スクリーンで動画を流したら良いのではないかとという案が出た。その際に、小豆島プロジェクトには高度な映像編集技術はなかったため、追手門学院大学放送部に協力してもらい、映像編集を行ってもらった。その際の打ち合わせや、小学生に伝わるにはどのような言い回しがいいかなど、打ち合わせはギリギリまで続いた。また



謎解きをする際に必要な「謎解きガイドブック」は、謎解きのヒントとして使ってもらうために作ったが、小豆島、茨木市、追手門学院大学、小豆島プロジェクトの資料(ガイドブック)を小豆島に持ち帰り、家族や周りの人にこの日のことをガイドブックを見ながら話して欲しいという思いも含まれている。

【編集後記】

小豆島プロジェクトに入ってから、長期に渡って1つのプログラム企画をするのは初めてで、正直不安がともある中でスタートだった。しかし、元々私はアイデアを出すことが好きで自分が提案したアイデアを、形にするということは夢でもあったので、フェイスペイン体験を思いついてから、実現出来たことは私にとってとてもいい経験になり、自信にも繋がった。実際、小豆島の小豆島は楽しんでくれていたようにも見えた。それがとても嬉しくて終わった頃にはとてもやりがいを感じた。将来、社会に出てもこの感覚は忘れないうでいたいと思った。